国道９号バイパス関係遺跡

水谷壽克

「国道９号バイパス関係遺跡」の調査は、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターが昭和56年度に発足して以来、15年間継続して実施してきた大規模開発調査の一つである。

この調査の経緯は、今から約22年前に遡る。昭和49年２月、丹波・丹後の宅地開発が進み交通量が増大したことから、口丹波の健全な開発発展・豊かな生活環境の確保を目的として、京都市右京区大枝沓掛町から船井郡丹波町須知に至る延長37kmの一般国道９号バイパスの整備計画が発表された。京都府教育委員会は、建設省近畿地方建設局と再三に亘る協議を行ない、昭和50年度から路線幅に限って帯状に発掘調査を実施することとなった。昭和56年度からは京都府教育委員会が設立した当調査研究センターがこの調査を引き継

付表１　国道９号バイパス関係遺跡調査一覧

遺跡名	所在地	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	文献番号
善願寺遺跡	園部町	△																				1
善願寺古墳	園部町	△																				1
小金岐古墳群	亀岡市	○	○								○	○										別表
小谷古墳群	八木町		○													△		○				1・27・30
拝田古墳群	亀岡市			○	○																	2・3
曽我谷遺跡	園部町						○															7
千代川遺跡	亀岡市						△	○		○	△	○	○	○	○	○						別表
条里制跡	亀岡市					△		○	○	○												10
南金岐遺跡	亀岡市							○														9
太田遺跡	亀岡市								○													36・10
北金岐遺跡	亀岡市									○												35・15・20
篠窯跡群	亀岡市		○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△									別表
医王谷3号墳	亀岡市								○													13
医王谷窯跡	亀岡市								○													13
八木嶋遺跡	八木町															○	○					27・29
川向北古墳	八木町																○	○				29・30
八木城跡	八木町																	○	○	○		30・31・32
堂山窯跡	八木町																	△		○		30・32
沢ノ谷遺跡	園部町																			○	○	32
今林古墳群	園部町																			○	○	32・33
今林遺跡	園部町																				○	33

ぎ、平成６年度に実施した今林古墳の調査をもってすべての現地調査を終了した。この間、国道９号バイパスは、昭和62年度に高規格幹線道路京都縦貫自動車道として位置づけられ、昭和63年２月には老ノ坂亀岡道路・亀岡道路が開通し、平成５年度には路線名が国道478号へと名称変更された。

さて、国道９号バイパス関係遺跡の発掘調査を開始した昭和50年当時、亀岡盆地の古墳時代以前の遺跡の調査は、昭和40年に実施された郡是工場体育館建設に伴う弥生時代中期の余部遺跡だけであった。以降約30年を経た今日、道路建設や宅地開発等により、多数の発掘調査が実施されその成果は多大なものがある。小稿では、国道９号バイパスによって得られた調査成果を簡単にまとめておきたい。

（小金岐古墳群）

小金岐古墳群は、行者山東麓の丘陵に総数百数十基の古墳が密集して築かれた丹波地域最大規模の群集墳である。各古墳は径６ｍから25ｍ程度の円墳で、盟主墳を中心としていくつかにグルーピングされる。埋葬主体部は全て横穴式石室と推察されるが、列石を有するもの、敷石を有するもの、排水施設を有するもの、石障を有するもの、石柵を有するものなど埋葬施設に相違がある。特に石障や石柵有する古墳は京都府内でも数例にすぎず、北九州や和歌山県で見られるもので注目される。築造時期は、６世紀後半に開始され７世紀前半の無袖式小石室をもって終焉をむかえる。

（拝田古墳群）

拝田古墳群は、拝田集落背後の拝田丘陵南麓に位置する。古墳群は、山腹・丘陵稜線上・丘陵端部に築かれ、総数17基が点在する。丘陵端部に築かれた16号墳は、全長約35ｍの前方後円墳である。現存の計測値は、後円部径約20ｍ・高さ約６ｍ、前方部幅約15ｍ・高さ約６ｍを測る。埋葬主体は、南方に開口する両袖式の横穴式石室で、玄室奥壁には石

付表２　拝田古墳群調査一覧

古墳名	墳丘		埋葬施設		出土遺物	備考	文献番号
	形態	規模	形態	規模			
拝田８号墳	円墳	径12ｍ・高3ｍ	両袖式横穴式石室	現存長5.17ｍ（玄室長2.42ｍ×幅1.68ｍ・羨道長2.75ｍ×幅0.9ｍ）	須恵器杯・鉄鏃など	列石	3
拝田９号墳	〃	径10ｍ	横穴式石室	現存長6.3ｍ（玄室長2.9×幅1.68ｍ・羨道長2.75ｍ×幅0.9ｍ）	須恵器杯・高杯・長頸壺・鉄器など	石障玄室及び羨道部は削平	3
拝田10号墳	〃	径22ｍ	割竹形木棺	長さ4.96ｍ×幅0.72ｍ	内行花文鏡・勾玉・ガラス小玉・鉄刀・鉄剣・鉄鏃など		2

付表３　小金岐古墳群調査一覧

古墳名	墳丘		石室		出土遺物	備考	文献番号
	形態	規模	形態	規模			
小金岐１号墳	円墳	径20m・高3.5m	両袖式横穴式石室	現存長9m(玄室長4m×幅2m・羨道幅1.2m)	須恵器杯・金環・土玉・留金具・刀子・土師器など	T字形石障・床面板石敷　石組暗渠排水溝	20
〃３号墳	〃	径8m・高3m	片袖式横穴式石室	現存長6.3m(玄室長2.9×幅3.3m・羨道幅2.3m)	須恵器杯・高杯・𤭯・ガラス玉・金環・鉄器など	列石	20
〃４号墳	〃	径6m	無袖式横穴式石室	現存長4.4m×幅1m	なし	敷石	23
〃５号墳	〃	径12m・高2.5m					1
〃６号墳	〃	径8m・高1.5m	無袖式横穴式石室	現存長4.9m×幅1.2m	須恵器杯・蓋・平瓶・短頸壺・土師器など	石室前面に列石・床面一部板石敷	1
〃８号墳	〃	径17m・高2m	両袖式横穴式石室	現存長6.1m(玄室長3.5×2.4m・羨道長2.6×幅1.4m)	須恵器杯・蓋・高杯・壺など	玄室床面に石敷	1
〃９号墳	〃	径12m・高1.8m	無袖式横穴式石室	現存長5.2m×幅1.5m	須恵器杯・蓋・高杯・短頸壺・土師器など		1
〃17号墳	〃	径14m・高2m	両袖式横穴式石室	現存長9.1m(玄室長3×幅2.2m・羨道長6.1×幅1.3m)	須恵器杯・高杯・台付長頸壺・台付盌・横瓶・𤭯・ガラス玉・釘など	外護列石・床面板石敷・排水溝	1
〃71号墳	〃	径22m・高1.8m	両袖式横穴式石室	現存長13.6m(玄室長3.9×2.4m・羨道長9.7×幅1.6m)	須恵器杯・高杯・台付長頸壺・金環・ガラス玉・金銅金具・釘など	外護列石・床面石敷	1
〃72号墳	〃	径15m・高1.5m	片袖式横穴式石室	現存長4.7m(玄室長2.3×幅2m・羨道長2.4×幅1.5m)			1
〃76号墳	〃	高2m	両袖式横穴式石室	現存長8m(玄室長4×幅2m・羨道長4m×幅1.5m)	須恵器杯・平瓶・金環・管玉・刀子など	石棚・玄室床面板石敷	1

柵が設けられている。石室は、玄室長３m、幅1.7m、高さ１m、羨道現存長0.7m、幅0.75m、高さ１mである。天井石は、玄室に２石、羨道に１石置かれている。石柵は、床面から1.7mのところに厚さ0.2mの板石を奥壁から1.2m張り出している。築造時期は、６世紀前半と考えられている。調査を実施した古墳３基は、別表のとおり埋葬形態に特徴があり、口丹波の古墳時代後期を知る上で貴重な資料となった。

（曾我谷遺跡）

曾我谷遺跡は、ほ場整備に伴う発掘調査により、弥生時代終末期のＶ字溝と古墳時代後期の掘立柱建物跡・土壙・旧河道等が検出され、園部川に注ぐ陣田川左岸の自然堤防上に営まれた弥生時代後期から古墳時代を中心とする集落遺跡であることが判明していた。調査を実施した地点は、後世の削平により遺構の遺存状況は非常に悪いものであったが、上述の集落遺跡を裏付ける遺物とともに、縄文時代後期から弥生時代にかけての石器類、奈良・平安時代の緑釉陶器・墨書土器等が出土した。

（千代川遺跡）

千代川遺跡は、東西約1.2ｋｍ・南北約1.6ｋｍの千代川町一帯に広がり、行者山北東麓の舌状に張り出す微高地上に、縄文時代後期から中世にいたる大小さまざま集落が点在し、場所を少しづつ移動し集落が営まれていたものと思われる。また、千代川遺跡北半部には、丹波国府推定地や奈良時代の寺院跡桑寺廃寺が存在する。丹波国府推定地は、案察使説・保津説・三宅説・屋賀説・千代川説等諸説挙げられるが、初期国府が千代川、後期国府が屋賀に存在したとする説がほぼ定説となっている。屋賀説は、承安四年(1174)の裏書きのある『吉富庄古絵図』に「国八庁」の文字や大規模建物跡が描かれており、「国府」「国府垣内」「国府馬場」の小字名や「国府川」という河川名が残っている。また、千代川説は、歴史地理学的考察から、推定国府跡西南限を画する千々川の屈曲する不自然な流路がみられること、北限を画する溝がみられること、東限を画する微高地境界がみられること、「国司牧」「野羅田」「大門」「学堂」「出口」など国府に関連した小字名が残っていることなどが指摘されていた。今回は、千代川国府推定域の西端を帯状に調査を実施し、直接国府に関する遺構は検出されなかったが、木簡や緑釉陶器・墨書土器・石帯など官衙跡に関連した遺物が多数出土した。

（条里制遺構）

亀岡盆地は、古代の碁盤目状の条里がのこっている。条里の施工時期を確認する目的で試掘調査を帯状に実施した。しかし、水田の畦畔は立ち割ることができず、明確な時期決定はできなかったが、この調査により分布調査で確認できなかった太田遺跡・南金岐遺跡・北金岐遺跡などの貴重な遺跡を検出した。

（太田遺跡）

太田遺跡は、行者山北東麓から大堰川にいたる扇状地に、小河川の侵食により舌状に残された微高地上に位置している。調査の結果、縄文時代後期から鎌倉時代にいたる遺構・遺物が出土した。特に、弥生時代前・中期の環濠は、西から東へ張り出す微高地を画するように、南北に２条(一部３条)の大溝が幅約2.5m、深さ約１ｍの逆台形を呈して約100m

にわたり円弧状に検出し、調査地南北の両隅において互いに東方へ巡るように延びていた。その推定長径は約160mを測る。溝内からは畿内第Ⅱ様式の土器や石器・木製品とともにイネ科の花粉化石が多数出土した。溝の東側(環濠内側)では、比較的等間隔で並ぶ径約

付表４　千代川遺跡調査一覧

次数	所　在　地	調査主体	原因	調査	概要	文献
千代川遺跡	千代川町一帯	京都府教育員会	９号バイパス建設	54年度	（分布調査）	5
第１次	北ノ庄	〃	〃	55年度	（試掘調査）顕著な遺構なし	7
第２次	〃	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃	56年度	弥生時代後期～古墳時代前期住居跡 奈良～平安時代掘立柱建物跡	9
第３次	小林・湯井	〃	宅地開発	57・58年度	古墳時代前期住居跡・大溝	11・15
第４次	大井町小金岐北浦	〃	校舎改築	58年度	奈良時代建物跡	14
第５次	北ノ庄	〃	９号バイパス建設	58年度	弥生時代後期～古墳時代前期住居跡 奈良～平安時代掘立柱建物跡	15
第６次	北ノ庄・千原	〃	府道拡幅	58年度	弥生時代中期方形周溝墓・溝	17
第７次	〃　・　〃	〃	〃	59年度	弥生時代中期水田跡	17
第８次	大井町小金岐北浦	〃	校舎改築	59年度	奈良時代建物跡	18
第９次	北ノ庄	〃	９号バイパス建設	59年度	（試掘調査）各時期における柱穴・溝等検出	38・20
第10次	〃	〃	〃	60年度	弥生時代後期住居跡・奈良～鎌倉時代建物跡	38・23
第11次	小林・湯井	亀岡市教育委員会	宅地開発	60年度	縄文時代晩期溝・弥生時代中期方形周溝墓	58
第12次	北ノ庄	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	９号バイパス建設	61年度	奈良～鎌倉時代掘立柱建物跡	38・24
第13次	〃	〃	〃	62年度	〃　・「承和七年」木簡出土	38・25
第14次	〃	〃	〃	63年度	〃　・石帯・施釉陶器・墨書土器等出土	38・26
第15次	〃	〃	〃	元年度	〃	38・27
第16次	〃	〃	府道拡幅	元年度	奈良～鎌倉時代掘立柱建物跡	16
第17次	〃	亀岡市教育委員会	市道改良	４年度	鎌倉時代掘立柱建物跡	
第18次	〃	〃	遺跡範囲確認	５年度	古墳時代住居跡・築地状遺構に伴う溝	59
第19次	〃	〃	〃	６年度	古墳時代住居跡・鎌倉時代掘立柱建物跡	60

0.1mの柱穴を多数検出し、柵列を設けていたことが明らかとなった。また調査地一帯より土壙群を検出した。長軸2.2m・短軸1.4mの楕円形土壙では、底は舟底状に掘られており、壺・甕が口縁部を合わせる状態で出土した。また直径約0.7mの円形土壙では、甕形土器・赤漆を塗った木製櫛・骨片等が出土し、これら土壙群は墓壙と推察された。今回の調査では、弥生時代前期に遡る環濠集落と、土器・石器等豊富な資料を得、口丹波の弥生文化の導入や各地域との交流を知る貴重な成果を得た。

（北金岐遺跡）

北金岐遺跡は、行者山東麓の微高地上、太田遺跡の北方約300mの所に位置する。調査の結果、弥生時代後期から鎌倉時代に至る長期的な複合集落遺跡であることが判明した。

弥生時代後期では、竪穴式住居跡（焼失家屋を含む）と畿内第Ⅴ様式の土器を伴う大溝や堰（田舟等が出土）を検出し、集落と潅漑排水施設との関連が想定された。また南に隣接する南金岐遺跡は、畿内第Ⅱ様式及び第Ⅴ様式の時期の集落跡で、太田遺跡に始まる行者山東麓の微高地上に営まれた弥生時代集落の変遷が明らかとなった。古墳時代後期では、集落の中心が北方へ広がり、背後の丘陵部に築かれた小金岐古墳群や北金岐古墳群との関連が注目される。奈良時代では、溝により区画された掘立柱建物跡が、方位を同じくして数棟建ち並び、その中央に倉庫配する奈良時代の集落の様子が明らかになった。鎌倉時代以降の建物及び溝は、現在の条里畦畔の方位に沿うように配され、条里施工時期を鎌倉時代以降と推定される資料となった。

付表５　篠窯跡群登窯一覧

遺跡名	調査概要	方位	時期	調査年度	文献番号
前山１号窯跡	長さ6.6m・幅1.3m・床面傾斜30°	N-87°-E	９世紀後	52年度	2
西前山１号窯跡	長さ6.7m・幅1.6m・床面傾斜25°	N-163°-E	９世紀後	60年度	37・21
袋谷１号窯跡	長さ5.7m・幅1.2m・床面傾斜38°	N-105°-E	９世紀末	60年度	37・22
小柳１号窯跡	長さ7m・幅1.2m・　床面傾斜30° 最大傾斜46°	N-80°-E	９世紀中	54年度	4
芦原１号窯跡	長さ6.6m・幅1.5m・床面傾斜38°	N-110°-W	９世紀前	55年度	6
西長尾１号窯跡	長さ5.3m・幅1.4m・床面傾斜28°	N-91°-E	９世紀初	56年度	34
西長尾３号窯跡	長さ8.4m・幅1.6m・床面傾斜29°	N-99°-E	10世紀初	56年度	34
西長尾４号窯跡	長さ5.8m・幅1.1m・床面傾斜37°	N-80°-E	９世紀初	56年度	34
西長尾奥第１窯跡群 １号窯跡	—	—	８世紀中	57年度	37・12
西長尾奥第２窯跡群 １号窯跡	長さ11m・幅2.3m・　床面傾斜 25°	N-98°-E	８世紀後	60年度	37・12
石原畑１号窯跡	長さ6m・幅1.3m・　床面傾斜26°	N-90°-E	９世紀末	57年度	34
石原畑２号窯跡	長さ9.5m・幅1.3m・床面傾斜36°	N-100°-E	９世紀末	57年度	34
石原畑３号窯跡	長さ4m・幅1.3m・　床面傾斜33°	N-78°-E	８世紀後	57年度	34

付表６　篠窯跡群小型平窯一覧

遺跡名	調査概要	方　位	時　期	調査年度	文献番号
前山２号窯跡	小型三角窯　一辺2m(底辺1.5m) 床面傾斜8°　緑釉出土	N-107°-E	10世紀前	55年度	6
前山３号窯跡	小型三角窯　一辺2.6m(底辺1.8m)、 床面傾斜8°　緑釉出土	N-118°-E	10世紀前	55年度	6
黒岩１号窯跡	小型三角窯　一辺2.3m焼成部床面傾斜10°　緑釉出土	N-141°-E	10世紀中	52年度	2
小柳４号窯跡	小型三角窯　一辺2m(底辺2.6m) 床面傾斜10°	N-83°-E	10世紀後	55年度	6
西長尾５号窯跡	ロストル式楕円窯　長径2.4m・短径1.4m　上部床面傾斜8°　下部床面傾斜10°	N-75°-E	10世紀末	56年度	34
西長尾６号窯跡	ロストル式小型三角窯　一辺2.4m、 上部床面傾斜不明、下部床面傾斜8°	N-77°-E	10世紀末	56年度	34

(篠窯跡群)

篠窯跡群は、篠町森から王子に至る、東西3.5ｋｍ・南北２ｋｍの丘陵一帯に広がり、奈良時代から平安時代後期まで連綿と続いた一大窯業生産遺跡である。分布調査等により確認できた窯跡は97基を数え、総数百数十基に及ぶ。調査の結果、須恵器窯跡22基(半地下式登窯16基・小型三角窯４基・ロストル式小型窯２基)、窯状遺構６基、窯業関連遺構２ヶ所等を確認した。窯体構築では８世紀から10世紀にかけて東から西へと築かれる傾向が見られること、10世紀を境として登窯から小型平窯へと窯体構造が変化することなどが明らかとなった。窯跡群は、８世紀段階では丹波国府や国分寺等に製品を供給する一地方窯として機能したが、長岡京・平安京が遷都されると一大生産地に変貌して畿内周辺各地へ製品を供給し、特に緑釉陶器や鉢は近畿以西を中心として広く流通した。

(医王谷３号墳)

医王谷古墳群は、標高412mの竜ヶ尾山北東麓の丘陵端部や頂部に４基が単独に築かれている。３号墳は径10m・高さ約３ｍの円墳である。墳丘裾部には、人頭大の石材による列石が巡る。埋葬施設は、南東に開口する両袖式の横穴式石室で、玄室長2.54m・幅1.80m・高さ0.8m、羨道長0.8m・幅0.8mを測る。玄室床面には拳大の角礫が敷き詰められ、板石が柩石として置かれていた。出土遺物では、須恵器杯身・杯蓋・台付有蓋壺・金環・玉類・鉄製品・石製紡錘車等があり、６世紀中葉に比定される。

(医王谷窯跡)

竜ヶ尾山北東麓の果樹園より窯跡１基を検出した。窯体は、燃焼室底部が遺存するのみでその詳細は不明であるが、窯滓とみられるレンガ層中より「亀岡焼」の文字の入った把手が出土し、明治時代前半期の連房式登窯と推定された。また、物原内より、幕末期のも

のと思われる鉢などが出土し、寛延２年(1749年)松平紀伊守信岑が亀山藩窯として開窯したと伝えられる「医王谷焼」の存在も明らかとなった。

(八木嶋遺跡)

八木嶋遺跡は、大堰川に流れ込む東所川の沖積作用により形成された扇状地に立地する。古墳時代後期に築かれた溝には、しがらみ状の護岸施設が設けられ、竪杵・鋤などの木製品や須恵器・土師器等とともに、奈良時代から平安時代にかけての墨書土器や硯、銅銭(延喜通宝・乾元大宝)等が出土し、付近に官衙的な施設であった可能性が高い。また、調査地北端部で検出した６世紀末から７世紀初頭にかけての掘立柱建物群は、四面庇をもつ大型建物を中心として柵と溝に囲まれた範囲内に建物が計画的に配されており、豪族の居館跡と想定される。

(小谷古墳)

小谷古墳群は、拝田丘陵北麓に位置する17基から成る古墳群である。

小谷17号墳は、径約９ｍの右片袖の横穴式石室墳である。玄室は、長さ約2.1ｍ・幅約1.9ｍのほぼ正方形に近いプランをもち、羨道は、長さ1.4ｍ・幅約0.7ｍを測る。羨道部の閉塞石は完存していた。副葬品は、須恵器・土師器・鉄刀などの鉄製品・馬具類・玉類など豊富に出土し、陶邑ＴＫ10型式からＴＫ43型式(６世紀前半)に初葬・追葬が行われたものと考えられる。丹波地域におけるこの時期の古墳は、拝田16号墳・医王谷３号墳などとともに貴重な資料である。

(川向北古墳)

川向北古墳群は、丘陵尾根に位置する３基から成る古墳群で、路線内に位置する１号墳の調査を実施した。１号墳は、径約13ｍを測る円墳で、墳丘裾部に列石を巡らす。石室は、左片袖の横穴式石室で、玄室長2.7ｍ・幅1.6ｍ、羨道長2.9ｍを測り、南西に開口する。出土遺物は、須恵器・土師器・鉄鏃・壁玉製管玉などがあり、６世紀末に比定される。また、墳丘の下層より、弥生時代後期の竪穴式住居・溝・土壙等の集落跡を検出した。

(八木城跡)

八木城跡は、室町時代の丹波守護代内藤氏が居城とする山城である。築城及び落城に関して断定し得る資料はない。本丸は、調査地外の標高約330ｍの山頂に築かれ、派生する尾根筋に曲輪を配している。調査は城山北東麓を帯状に実施した。その結果、幅の狭い曲輪を段々状に重ねて地形を複雑にした状況や、古絵図に「天神口」と記された大手城戸口地点より屋敷地跡を検出し、八木城跡の防御機能の一端を明らかにすることができた。

(堂山窯跡)

堂山窯跡は、須恵器片・窯滓が表採された(バイパス路線外)ことから周知の遺跡として

知られていたが、正確な地点や基数は不明であった。八木城跡調査中、整地土(曲輪)下層から窯体を検出し、堂山２号窯跡と命名して調査を実施した。窯跡は、煙道部及び灰原部が曲輪造成時に削平されていた。天井部は崩落しているが地下式穴窯と考えられる。窯体の残存長は約6.9m・最大幅約1.5m・焼成部床面最大傾斜角30度である。須恵器の出土点数は少ないが、陶邑ＴＫ209型式期に属するものが見られ、６世紀末を前後する時期と考えられる。京都府南丹地域の古墳時代の須恵器窯跡は、園部町大向窯跡が著名であるが、窯体を検出したのは初例である。

(沢ノ谷遺跡)

小丘陵の標高約130mの陵地に弥生時代中期(畿内第Ⅳ様式)の円形竪穴式住居１基・奈良時代の土壙墓１基などを検出した。土壙墓は、長さ約２m・幅約0.5m・深さ約0.4mを測る。墓壙底面には、約３cmの厚さで木炭を敷き詰め、鉄鉢形須恵器１点が置かれていた。また墓壙の長軸両側面には形を留めた木炭が並べられていた。奈良時代の古墓の調査例は少なく貴重な資料である。

(今林古墳群)

今林古墳群が築かれた小丘陵の南約１kmには、古墳時代前期の前方後円墳である園部垣内古墳が位置し、さらに南西約３kmには庄内式併行期に属する前方後円墳の園部黒田古墳が位置する。

今林１号墳は、東西約12m・南北約９mの長方形墳で、墳頂部より長さ3.5m・幅1.1m深さ0.15mの主体部を検出した。副葬品は見られなかったが、主体部上面より供献された古式土師器の壺や高杯が出土した。また、墳丘盛り土の下層より埋葬施設３基及び土器棺墓１基を検出した。今林２号墳は、径約17mの円墳で、４基の主体部を検出した。最初に築かれた主体部からは、長さ3.7m・幅0.8mの箱式木棺痕跡を検出し、主体部上面及び棺内より須恵器・鉄刀・鉄鏃・玉類などが出土した。須恵器は陶邑ＴＫ47型式期に属し、５世紀末から６世紀初頭に築かれたと考えられる。また墓壙長約4.7m・幅2.6mの最大規模を測る主体部からは、６世紀中葉の陶邑ＴＫ10型式の須恵器や馬具・鉄刀などが出土している。

また２号墳の築かれた丘陵一帯より、弥生時代後期及び古墳時代中期の集落跡を検出した。古墳時代中期の造りつけ竈をもつ竪穴式住居は、綾部市域を中心とする「青野型住居」と呼ばれるものの中で最も古い時期のものである。

(みずたに・としかつ＝当センター調査第１課課長補佐兼企画係長)

（文献）

京都府教育委員会

1）　昭和51年度国道９号バイパス関係遺跡発掘調査概報（小金岐古墳群）　埋蔵文化財発掘調査概報 1977

2）　国道９号バイパス関係遺跡昭和52年度発掘調査概要（拝田古墳群・篠窯跡群）埋蔵文化財発掘調査概要　1978

3）　国道９号バイパス関係遺跡昭和53年度発掘調査概報（拝田古墳群）　埋蔵文化財発掘調査概報 1979

4）　篠窯跡群昭和54年度発掘調査概要　埋蔵文化財発掘調査概要1980-1　1980

5）　国道９号バイパス関係遺跡昭和54年度発掘調査概要（千代川遺跡）　埋蔵文化財発掘調査概要 1980-1　1980

6）　篠窯跡群昭和55年度発掘調査概要　埋蔵文化財発掘調査概要1981-2　1981

7）　国道９号バイパス関係遺跡昭和55年度発掘調査概要（千代川遺跡１次・曽我谷遺跡）　埋蔵文化財発掘調査概要1981-2　1981

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター

8）　篠窯跡群昭和56年度発掘調査概要　京都府遺跡調査概報１　1982

9）　国道９号バイパス関係遺跡昭和56年度発掘調査概要（千代川遺跡２次・北金岐遺跡）京都府遺跡調査概報１　1982

10）　国道９号バイパス関係遺跡昭和57年度発掘調査概要（北金岐遺跡・太田遺跡）　京都府遺跡調査概報７　1983

11）　千代川遺跡第３次発掘調査概要　京都府遺跡調査概報７　1983

12）　篠窯跡群昭和57年度発掘調査概要　京都府遺跡調査概報７　1983

13）　医王谷３号墳発掘調査概要　京都府遺跡調査概報７　1983

14）　千代川遺跡第４次発掘調査概要　京都府遺跡調査概報10　1984

15）　国道９号バイパス関係遺跡昭和58年度発掘調査概要（千代川遺跡５次・北金岐遺跡）京都府遺跡調査概報12　1984

16）　篠窯跡群昭和58年度発掘調査概要　京都府遺跡調査概報10　1984

17）　千代川遺跡第6・7次発掘調査概要　京都府遺跡調査概報14　1985

18）　千代川遺跡第8次発掘調査概要　京都府遺跡調査概報14　1985

19）　篠窯跡群昭和59年度発掘調査概要　京都府遺跡調査概報14　1985

20）　国道９号バイパス関係遺跡昭和59年度発掘調査概要（千代川遺跡９次・北金岐遺跡・小金岐古墳群）京都府遺跡調査概報17　1985

21）　西前山窯跡群発掘調査概要　京都府遺跡調査概報18　1986

22）　篠窯跡群昭和60年度発掘調査概要　京都府遺跡調査概報20　1986

23）　国道９号バイパス関係遺跡昭和60年度発掘調査概要（千代川遺跡10次・小金岐４号）京都府遺跡調査概報21　1986

24)　昭和61年度国道９号バイパス関係遺跡発掘調査概要(千代川遺跡12次)　京都府遺跡調査概報26　1987
25)　昭和62年度国道９号バイパス関係遺跡発掘調査概要(千代川遺跡13次)　京都府遺跡調査概報31　1988
26)　国道９号バイパス関係遺跡昭和63年度発掘調査概要(千代川遺跡14次)　京都府遺跡調査概報35　1989
27)　国道９号バイパス関係遺跡平成元年度発掘調査概要(千代川遺跡15次・八木嶋遺跡・小谷17号墳)京都府遺跡調査概報40　1990
28)　千代川遺跡第16次発掘調査概要　京都府遺跡調査概報44　1991
29)　国道９号バイパス関係遺跡平成２年度発掘調査概要(八木嶋遺跡２次・川向北古墓)京都府遺跡調査概報46　1991
30)　国道９号バイパス関係遺跡平成３年度発掘調査概要(小谷17号墳・川向北１号墳・八木城跡・堂山窯跡)京都府遺跡調査概報51　1992
31)　国道478号バイパス関係遺跡平成２・４年度発掘調査概要(八木嶋遺跡３次・八木城跡)京都府遺跡調査概報56　1994
32)　国道478号バイパス関係遺跡平成５年度発掘調査概要(今林古墳・沢ノ谷遺跡・八木城跡)京都府遺跡調査概報62　1995
33)　国道478号バイパス関係遺跡平成６年度発掘調査概要(今林古墳群・今林遺跡)京都府遺跡調査概報69　1996
34)　篠窯跡群１　京都府遺跡調査報告書２　1984
35)　北金岐遺跡　京都府遺跡調査報告書５　1985
36)　太田遺跡　京都府遺跡調査報告書６　1986
37)　篠窯跡群２　京都府遺跡調査報告書11　1989
38)　千代川遺跡　京都府遺跡調査報告書16　1992
39)　水谷寿克　亀岡市篠窯跡群　京都府埋蔵文化財情報創刊号　1981
40)　石井清司　篠・西長尾窯跡発掘調査概要　京都府埋蔵文化財情報２　1981
41)　村尾政人　千代川発掘調査概要遺跡　京都府埋蔵文化財情報２　1981
42)　石井清司　篠・西長尾５・６号窯跡発掘調査概要　京都府埋蔵文化財情報３　1982
43)　石井清司　篠窯跡群出土の須恵器について　京都府埋蔵文化財情報７　1983
44)　岡崎研一　千代川遺跡第３次発掘調査概要　京都府埋蔵文化財情報９　1983
45)　石井清司　森下衛　南金岐遺跡Ｂ地点検出の大溝について　京都府埋蔵文化財情報11　1984
46)　田代　弘　南金岐遺跡出土の石庖丁　京都府埋蔵文化財情報11　1984
47)　森下　衛　千代川・桑寺遺跡の発掘調査　京都府埋蔵文化財情報12　1984
48)　田代　弘　南金岐遺跡Ｃ地点の調査　京都府埋蔵文化財情報14　1984
49)　田代　弘　亀岡市小金岐１・３・７号墳の調査　京都府埋蔵文化財情報16　1985

50)　村尾政人・田代弘　亀岡市穴川遺跡の表採遺物について　京都府埋蔵文化財情報16　1985

51)　田代　弘　亀岡市千代川遺跡出土の壺形土器　京都府埋蔵文化財情報18　1985

52)　森下衛・西岸秀文　千代川遺跡第10次の発掘調査　京都府埋蔵文化財情報19　1986

53)　田代　弘　南金岐遺跡出土の記号文のある土器　京都府埋蔵文化財情報19　1986

54)　石井清司　石原畑窯跡出土のヘラ描き文字・文様の須恵器について　京都府埋蔵文化財情報21　1986

55)　森下　衛　千代川遺跡第12次の発掘調査　京都府埋蔵文化財情報23　1987

56)　鵜島三寿　千代川遺跡出土の木製品　京都府埋蔵文化財情報31　1989

57)　伊野近富　篠窯原型と陶邑窯原型の須恵器について　京都府埋蔵文化財情報37　1990

亀岡市教育委員会

58)　千代川遺跡第10次発掘調査報告　亀岡市文化財調査報告書第15集　1987

59)　千代川遺跡第18次発掘調査報告　亀岡市文化財調査報告書第30集　1995

60)　千代川遺跡第19次発掘調査報告　亀岡市文化財調査報告書第33集　1996